



2025 年 5 月 27 日

各 位

会 社 名 旭 化 成 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 工 藤 幸 四 郎
(コード番号：3407 東証プライム市場)
問 合 せ 先 広 報 部 長 坂 元 善 洋
(TEL 03-6699-3008)

**MMA、CHMA、アクリル樹脂、SB ラテックスの事業撤退および
アセトニトリルの供給体制再構築に関するお知らせ**

旭化成株式会社（以下「当社」）は、本日開催の取締役会において、メタクリル酸メチル（MMA）モノマー、シクロヘキシルメタクリレート（CHMA）、アクリル樹脂（製品名：「デルペット™」、「デルパウダ™」）と SB ラテックスの事業撤退およびアセトニトリルの供給体制再構築方針（川崎精製工場閉鎖）について決議しましたので、お知らせします。

これに伴い 2026 年 3 月期決算において、事業構造改善費用約 250 億円を特別損失として計上する見込みです。

記

1. 背景と経緯

当社は、『中期経営計画 2027 ～Trailblaze Together～』（以下「中計」）の基本方針のひとつに、構造転換や生産性向上による資本効率改善を掲げ、事業のポートフォリオを見直すとともに経営資源の再配分を進めています。

今回の構造転換の対象である川崎製造所のアクリル樹脂事業、SB ラテックス事業およびアセトニトリル事業は 1963 年に、また MMA 事業は 1974 年に操業を開始して以来、50 年超にわたり国内外のお客さまに製品を提供してきました。

しかし、近年、経済環境の低迷が長期化する中、原料コストの上昇による競争力の低下に加え、中国における石油化学製品の大規模な生産能力の増強を背景とした需給環境の悪化により、当該製品群の稼働率は低水準で推移しており、厳しい状況が続いています。こうした状況は構造的かつ不可逆的であると判断し、当社は川崎製造所において製造している当該製品群からの撤退を決断いたしました。

2. 撤退・供給停止に伴う体制について

(1) 対象製品

対象製品	生産終了時期	販売終了時期
メタクリル酸メチル（MMA）モノマー	2026 年 9 月 予定	2026 年 9 月 予定
シクロヘキシルメタクリレート（CHMA）	2026 年 3 月 予定	2026 年 3 月 予定
アクリル樹脂	2026 年 9 月 予定	2027 年 9 月 予定
SB ラテックス	2027 年 9 月 予定	2027 年 12 月 予定
アセトニトリル (川崎精製工場における生産)	お客さまとの協議を経て、別途決定いたします	韓国の子会社（東西石油化学株式会社）で製造した製品を日本国内に供給いたします。

(2) 対象事業の売上高（2025 年 3 月期実績）

34,635 百万円

(3) 当該製品群の事業に携わる従業員

190 名

なお、今回の構造転換に伴い、当該従業員は当社内で再配置を予定しています。

3. 川崎地区の将来構想に向けて

当社は中長期視点での事業ポートフォリオ転換を通じた資本効率の改善を中計で掲げています。本構造転換を通じて、川崎製造所においては、「戦略的育成」と位置付けているエネルギー&インフラ事業のイオン交換膜法食塩電解事業や水素関連事業の最重要拠点として経営資源を集中させていきます。これにより、同事業の持続可能な成長と競争力の強化を図ってまいります。

4. 業績に与える影響

2026 年 3 月期決算において、事業構造改善費用約 250 億円を特別損失として計上する見込みです。なお、当損失については、すでに公表済みの 2026 年 3 月期連結業績予想に織り込んでいるため、現時点で業績予想の変更はございません。

(参考) 当期連結業績予想 (2025 年 5 月 9 日公表分) および前期連結実績 (単位: 百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
当期業績予想 (2026 年 3 月期)	3,117,000	215,000	216,000	125,000
前期実績 (2025 年 3 月期)	3,037,312	211,921	193,459	134,996

以 上